


**3日目 18日(月・祝日)**  
**10:00~12:00** 講演  
**講演** ●「原発事故が何をもたらしたのか?」 ● 宍戸隆子



宍戸隆子  
 1972年生。東京電力福島第二原子力発電所があり、今回第一原子力発電所の事故で避難区域に指定された富岡町で育つ。東日本大震災当時は、福島県伊達市に在住。2011年6月中学生の息子と小学生の娘を連れて札幌へ。自主避難者の集まる住宅の自治会代表を4年務め、以後も避難当事者として支援活動や講演活動を続けている。こだまプロジェクト代表。

**13:00~15:00** ドキュメンタリー+監督トーク  
**映画** ●「This is a 海兵隊」+ 辺野古最新映像レポート  
 藤本幸久・影山あさ子共同監督作品  
 2017年/57分/森の映画社




沖縄の米軍基地の3分の2は海兵隊だ。彼らは沖縄でどんな訓練をし、どこで戦争をするのか。ベトナム戦争からイラク戦争まで、元海兵隊が語る沖縄での訓練と戦争の現実。アメリカ政府の決定に従い、アメリカの国益のために、世界中で戦い続けてきた海兵隊は、今もアメリカの次の戦争に備えて、沖縄で訓練を続けている。  
**尖閣で何かあった時、海兵隊は果たして助けに来てくれるのか?**

**藤本幸久・影山あさ子「最新辺野古映像レポート」**



辺野古の埋め立て承認取り消しを違法だとして国が沖縄県を訴えた裁判は、2016年12月、最高裁で沖縄県の敗訴となった。翁長知事が埋め立て承認取り消しを取り消すと、翌日から辺野古の海の工事が再開された。しかし、海で、キャンシュワブのゲート前で、工事を止めようとする、県民の抵抗が続く。辺野古最新映像レポートとともに、辺野古の現場から、佐々木弘文さんを迎えてのスペシャルトーク。

**15:30~17:00** 講演  
**講演** ●映画で迎える「在日」物語り ● 齋漢子(ユ・ヨンジャ) 眞宗大谷派僧侶



1989年映画「潤の街」で監督金祐宣(キムユソン)の名前を見た。エンディングの音楽と共にスクリーンに通名ではない制作者たちの名前が写し出された。新しい時代を予感させる感動を受けた。映画は時代を反映する。映画を通して迎える「在日」の物語り。

**17:30~18:30** ライブ  
**ウ・ラッキーしげる ソロライブ**  
 コミックソングからまじめな曲まで、幅広い歌をお聞かせいたします。



**さよならパーティー** ●18:30~ (参加費●¥1,000)  
 ☆今年も十勝・新得の美味しいものがいっぱい立食パーティー、お楽しみに!

**プログラム早見表**

**前夜祭 15日(金)**  
 18:00~19:00 ●映画 ●This is a オスプレイ 藤本幸久・影山あさ子共同監督作品  
 19:30~21:00 ●オープニング・パーティー ●

**1日目 16日(土)**  
 10:00~11:30 ●映画 ●美ら海を未来へ~辺野古・高江、新基地建設反対による思い~ 中井信介監督作品/2017年/71分 FoEJapan・手わたしプレス共同制作  
 12:30~14:30 ●講演 ●琉球弧の島々の軍事要塞化 一宮古島で進む戦争準備に抗する ●清水早子  
 15:00~17:00 ●劇映画 ●秋の理由 福岡健二監督作品/2016年/88分  
 20:00~21:00 ●ひとり芝居 ●「足跡」 濟州四・三事件/きむきがん ●劇団石(トル)主宰

**2日目 17日(日) 森口諭監督と沖縄を見る・聞く・語る** 司会・進行/ユ・ヨンジャ  
 10:00~12:00 ●映画 ●乾いた沖縄 ●1963年「ノンフィクション劇場」、30分  
 13:00~15:00 ●映画 ●沖縄の十八歳 ●1966年「ノンフィクション劇場」、30分  
 ●映画 ●一幕一場・沖縄人類館 ●1978年「ノンフィクション劇場」、30分  
 16:00~18:00 ●映画 ●ひめゆり戦史-いま問う国家と教育 ●1979年「ドキュメント79」、55分  
 19:30~21:30 ●LIVE ●川本真理+宇井ひろし

**3日目 18日(月・祝)**  
 10:00~12:00 ●講演 ●原発事故が何をもたらしたのか? ● 宍戸隆子  
 13:00~15:00 ●映画 ●This is a 海兵隊 ●2017年/57分/森の映画社 ●藤本幸久・影山あさ子「最新辺野古映像レポート」  
 15:30~17:00 ●講演 ●映画で迎える「在日」物語り ● 齋漢子(ユ・ヨンジャ)  
 17:30~18:30 ●LIVE ●ウ・ラッキーしげる  
 18:30~ ●さよならパーティー ●

●...ドキュメンタリー ●...ライブ ●...劇映画 ●...講演 ●...パーティー

**[アクセス]**

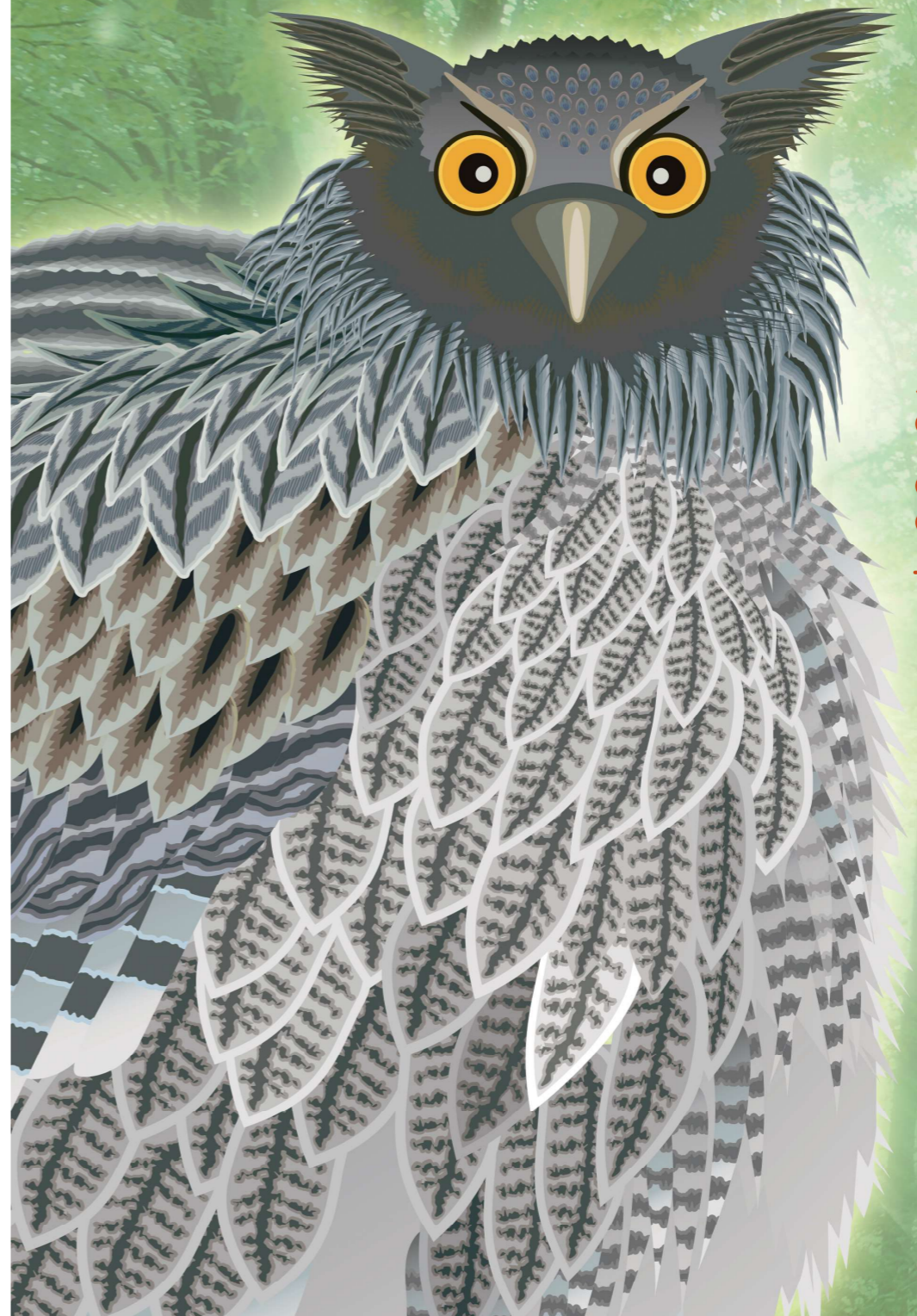
- 帯広空港より~まずJR帯広駅まで連絡バスで40分帯広駅からJRで約1時間
- 千歳空港より~JR特急南千歳乗換約2時間
- 千歳空港より~道東道経由・十勝清水ICから一般道、約2時間
- 札幌から~JR特急で約2時間、車で約3時間半(高速経由で約2時間半)
- 旭川から~車で約2時間半(狩勝峠経由)
- 釧路から~車で約3時間(道東道経由)



★JR新得駅からは約10km、歩くとも2時間程かかります。JRで新得に到着された方は0156-64-3161(会場直通)まで電話ください。タイミングが良ければ、他の誰かの車に便乗できるかも知れません!

第22回 SHINTOKU  
**空想の森映画祭**

〈会期〉2017年9月16日(土) → 18日(月・祝日)  
 〈会場〉新内ホール(旧新内小学校) 北海道上川郡新得町字新内



〈入場料〉  
 ●3日間通し券 ■3,000円 (パーティー以外のすべてのプログラムに入場出来ます。)  
 ●1日券 ■2,000円  
 ●1プログラム券 ■1,000円  
 \*パーティーは別料金(1,000円)  
 \*前売り券は発行いたしません。当日、会場の受付でお求めください。  
 \*パーティーを除くすべてのプログラム 高校生以下無料。

■お問い合わせ  
 ☎090-8278-6839 (映画祭事務局/藤本)  
 ☎090-6216-1528 (映画祭帯広事務所/野田)  
 ■会場直通(会期中のみ)  
 ☎0156-64-3161 (新内ホール)  
<http://kuusunomori.com/>

★ボランティアスタッフ募集!  
 ★出店者も募集しています。

主催 ●SHINTOKU 空想の森映画祭実行委員会  
 共催 ●北海道新聞帯広支社  
 後援 ●新得町・新得町教育委員会(予定)

前夜祭●15日(金)

●18:00~19:00(60分)

ドキュメンタリー



映画●**This is a オスプレイ**  
藤本幸久・影山あさ子共同監督作品  
2017年/60分/森の映画社

夢の飛行機と宣伝された米海兵隊の新型輸送機オスプレイ。しかし、開発段階から30名の死者を出し、「未亡人製造機」とも呼ばれている。実戦配備後もモロッコやハワイで墜落死亡事故が続き、昨年12月には沖縄県名護市安部の海岸に墜落。飛ばせば飛ぶほど事故率が上がってゆく。オスプレイは、なぜ落ちたのか。8月、日米共同訓練で、オスプレイは北海道の空を飛ぶ。オスプレイは日本中、どこでも飛ぶ。

●19:30~21:00

パーティー

オープニング・パーティー

1日目●16日(土)

●10:00~11:30(71分)

ドキュメンタリー+監督トーク



映画●**美ら海を未来へ**  
～辺野古・高江、新基地建設反対による思い～  
沖縄の辺野古や高江で、工事車両の進入路に座り込み、命がけで新基地建設を止めようとする人々。その背景には、貴重な自然を守りたいという思いや、多くの命が奪われた戦争の記憶など、様々な思いが重なり合っています。そんな思いとは裏腹に、かけがえのない海や森が壊され、戦争をするための米軍基地が作られようとしています。

中井信介監督作品 / 2017年 / 71分  
FoEJapan・手わたしプレス共同制作

中井信介

私たちは次世代の子どもたちに、あの美しい海や森を残してやるのでしょうか？



●12:30~14:30

講演

講演●**琉球弧の島々の軍事要塞化**  
一宮古島で進む戦争準備に抗する! ●清水早子



宮古島の地図の上で指揮所演習を行う米軍と自衛隊

日米両政府が進める安全保障政策の下、南の島々、奄美大島、石垣島、また観光で湧く島一宮古島にも、陸上自衛隊ミサイル部隊が新たに配備されようとしていることを、まだ全国的には周知されていません。

エネルギー政策でフクシマが犠牲になり、安保政策ではリュウキュウ弧が、辺境の地が打ち棄てられること、再び、オキナワが次なる戦争でも捨石にされることを、私たち島の住民は拒み、抗していることをお伝えしたい。

清水早子(宮古島ピースアクション実行委員会代表)

1995年より宮古島に就労し、居住。下地島空港の軍事利用に反対し、反軍反基地運動に取り組んで20年。素潜り歴35年。



●15:00~17:00

劇映画+監督トーク

映画●**「秋の理由」** 福間健二監督作品 2016年/88分  
<http://akinoriyuu.com>



『秋の理由』は、詩人としても活躍する福間健二監督の長篇第5作。福間健二はここまで、映画の新しい語り方と魅惑を、主に女性たちの生きる「いま」のなかに探ってきた。本作では、60代を迎えた二人の男の友情を軸に、この世の迷路の先でなお生きることを肯定しようとしている。

福間健二監督トーク

「新得で劇映画を作る」

この夏、新得に一ヶ月滞在して構想を練ります。乞う、ご期待。



●20:00~21:00

ライブ

ひとり芝居「足跡」

●きむきがん

作・演出●きむきがん・チェザンドン  
出演●きむきがん  
音楽●チェ・ザンドン  
スタッフ●こんさじゃ

平凡な人達の普遍的な愛と、4.3当時、国家公権力が起こした大虐殺の意味を、ある在日同胞の家族の記憶を通して描く、劇団石(トル)初の4.3作品。



チェザンドン



済州四・三事件69周年犠牲者慰霊祭

《作品介绍》

「由利、ハルモニ死んだらな、コヒャン、連れていってくれへんか?ここから、遠いな」アボジは昔、ハルモニが時々夢にうなされて「黒い犬が来たー!」って自分の横で大声で叫んでめっちゃ驚いてたことがあるらしい。それが、あの4.3事件の時に、島民達の生きるための合言葉やったということ、後でハルモニから聞いて知った。

ハルモニの倉庫にはいつも、泥がついたハルモニのスリッパの足跡があった。その横にはお出かけ用の綺麗な靴が置いてあった。大阪に渡ってきて、苦労ばかりしたハルモニは、最後、布団の中で眠るように死んだ。とても穏やかな顔をしていた。まるで、平和だった故郷に帰る夢でも見てるみたいに。

きむきがん●在日同胞3世・劇団石(トル)主宰。役者・シンガー・ソングライター。

日本、滋賀県を拠点に、一人芝居・演劇ワークショップ・音楽ライブなど、全国各地で活動中。パワフルな笑いの中に、常に社会的弱者に目を向けた作品を上演している。

2日目●17日(日) 森口裕監督と沖縄を見る・聞く・語る 司会・進行/ユ・ヨンジャ

●10:00~12:00

ドキュメンタリー+監督トーク

映画●**「乾いた沖縄」** ●1963年「ノンフィクション劇場」、30分



舞台は、電気も水道もない小さな島・久高島。100年に一度という大干ばつと闘う人たちの日々を描いた「森口ドキュメンタリー」の第一作。

島の人たちが「カー」(湧水)と呼ぶ暗いガマの中の井戸。生きるための水を求め、女たちの雨待ちの列は日ごとに長くなる…。日本のテレビドキュメンタリーの父・牛山純一の指導のもと、悪条件の重なる離島で自らカメラを回し続けて撮った記念碑的な作品である。

ナレーターは時代劇で一世を風靡した柳永二郎、ナレーションはドラマ「夢千夜日記」などの名作をものした早坂暁。新藤兼人の「裸の島」を彷彿とさせる「幻のドキュメンタリー」が50余年の歳月を経てよみがえる。

●13:00~15:00

ドキュメンタリー+監督トーク

映画●**「沖縄の十八歳」** ●1966年「ノンフィクション劇場」、30分

映画●**「一幕一場・沖縄人類館」** ●1978年「ノンフィクション劇場」、30分



日本から切り離され、米軍支配下に置かれた沖縄の人たちにとって「祖国ニッポン」とは何なのか…。これは東京生まれの森口が沖縄に移住してまでして追い求めた永遠のテーマ。

主人公の内間安男は基地の街・コザ高校三年生。沖縄戦没者慰霊の日の6月23日、彼はクラスメートと共に平和行進に参加。那覇から摩文仁の丘までの24キロを歩き、国の代表として慰霊祭に参列した衆議院議長に直訴状を突きつけるのだが…。

●『沖縄の十八歳』は全4部作。森口は実に四半世紀、24年の長きにわたって内間安男という一人の人間と、彼の生きるオキナワにカメラを向け続けた。

●『一幕一場・沖縄人類館』はそのシリーズの3作目。30歳になった内間は、アマチュア劇団の役者として舞台の上から「苦難の沖縄の近現代」を生きた沖縄人を笑飛ばす。それはなぜ?。

●16:00~18:00

ドキュメンタリー+監督トーク

映画●**「ひめゆり戦史・いま問う国家と教育」**  
●1979年「ドキュメント79」、55分



〈沖縄戦〉は森口が最も力を込めたテーマ。なにか、誰が学徒たちを戦場に駆り出したのか。「少女たちは進んで戦場に赴いた」という「ひめゆり伝説」は、果たして真実なのか。

森口は、数少ない生存学徒たちの証言を手がかりに、当時の教職員や学校幹部、沖縄県の指導部、さらには第32軍(沖縄守備軍)高級参謀を捜し出し「真相究明のマイク」を突きつける。大人たちの卑屈で自己保身的な応答が、基地の島・沖縄に虚しく響く。この国のテレビには、かつてここまで自由に、ジャーナリストに仕事をしていた時代があった。そんなことを考えさせる作品でもある。



1937年東京生まれ。私立大を中退して1959年、米軍政下の沖縄に移住。琉球新報社会部記者を経て日本テレビ「沖縄特派員」に。

74年、東京転勤後も足繁く沖縄に通い、ドキュメンタリーを作り続けた。93年、退職しフリージャーナリストに。「ひめゆり戦史」「島分け 沖縄鳩間島哀史」などでテレビ大賞優秀個人賞を受賞。著書に「最後の学徒兵 BC級死刑囚 田口泰正の悲劇」(講談社刊)「だれも沖縄を知らない27の島の物語」(筑摩書房刊。沖縄タイムス出版文化賞)など多数がある。

【森口裕・もりぐちかつ】  
過疎に悩む八重山諸島鳩間島のルポルターージュ「子乞い 沖縄孤島の歳月」(凱風社刊)は、「瑠璃の島」「光の島」などのタイトルで連続テレビドラマや連載マンガになった他、劇団文化が舞台化し話題を呼んだ。近著に写真集「さよならアメリカ」(未来社)、フォトエッセイ「米軍政下の沖縄 アメリカ世の記憶」(高文研)がある。現在「沖縄を語る一人の会」主宰。

●19:30~21:30

ライブ

Live●川本真理+宇井ひろし



川本真理  
ピアノ弾き、作曲家、料理人。自然や旅、日々のことから曲をつくり演奏活動をする。2012年ピアノCD「カゼノカミサマノイルトコ」発表。2017年9月まで3年間、イタリアを長く旅して働き料理を学び、ピアノライブしたり新しい曲も作りました。今の日本のリアルがぎゅっと詰まった映画祭で久しぶりに皆さんに会えること、ピアノが弾けること、とても楽しみです!

宇井ひろし  
「地球を描きたい」「人を描きたい」そんな想いで農業をしながら歌を作っています。毎年冬にはツアーに出ます。歌・アコーディオン・ギター 農場日誌 <http://noujyoumissi.blog.jp/>